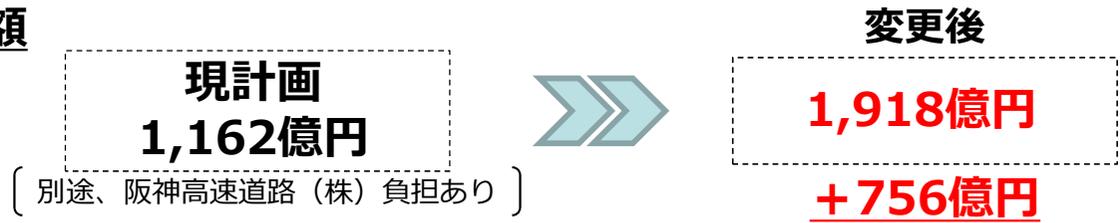


3 費用便益分析 前回評価時からの増減・増減要因

これまでの経過

- 2025年大阪・関西万博の開催が決定 [2018(H30).11] し、2019(R1)年度の博覧会協会などからの要請を受け、シャトルバスのアクセスルートとしての暫定利用に向けて、事業の前倒しの取り組みを一層推進
- 現地での調査の進捗と、工事の本格化 [2018(H30)年度～] により、実際の現場条件と当初の想定との違いについて確認を進めてきた
- **実際の現場条件に基づく詳細な設計及び施工方法の見直しが2019(R1)年度末に完了したことにより、増額リスクが明らかになった**

○事業費の増額



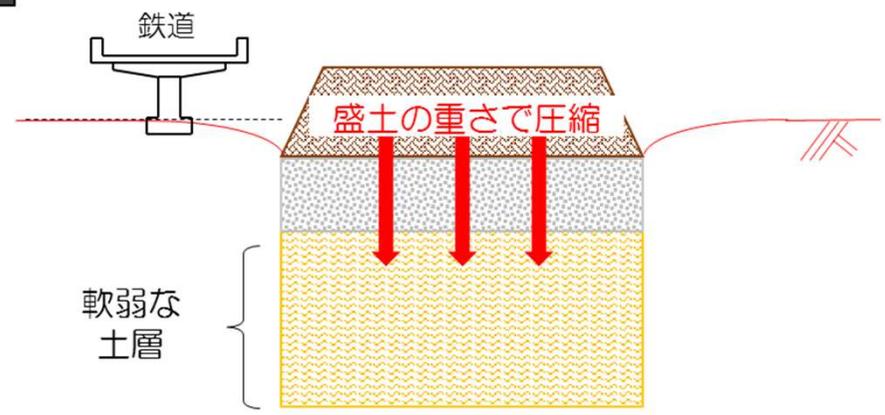
項目	内容	増額 (単位: 億円)
1 安全性の確保	① 近接構造物等への影響対策 (地盤改良工法変更) ② 道路ボックスへの影響対策 (土留め矢板の長さの変更) ③ 周辺環境への配慮 (河川工事の土砂搬入方法の変更) ④ 仮堤防の基準の見直し 等	144
2 現地調査後に判明	① 現地詳細調査による土壌汚染範囲の拡大 ② 想定以上の軟弱地盤であったことによる工法変更 ③ 現地詳細調査による地中障害物の撤去の追加 等	302
3 工事費の高騰	① 現時点 (R1年度末) までの労務費、資材価格の上昇 ② 近年の傾向から想定される将来の工事費高騰リスク	270
4 設備工事費の増額	① トンネル天井板落下事後の基準改定による機能追加 ② 工事費の高騰 等	114
5 コスト減額	① トンネル構築ステップの見直しによる効率化 ② 落札差金 等	△74
	合計	756

3 費用便益分析 前回評価時からの増減・増減要因(主な増額内容)

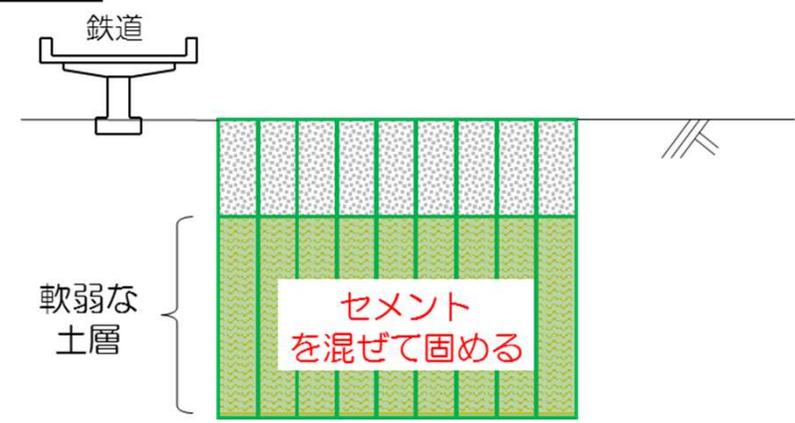
1 安全性の確保 事業費：+144億円

■地盤改良の工法変更

当初 周辺地盤の沈下により近接する鉄道構造物などに影響

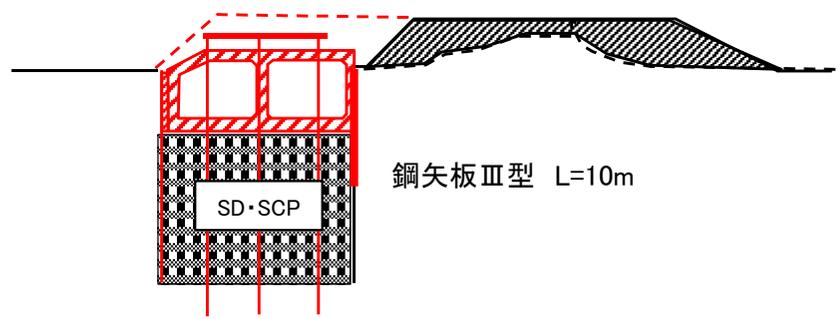


変更 鉄道などの交差部付近

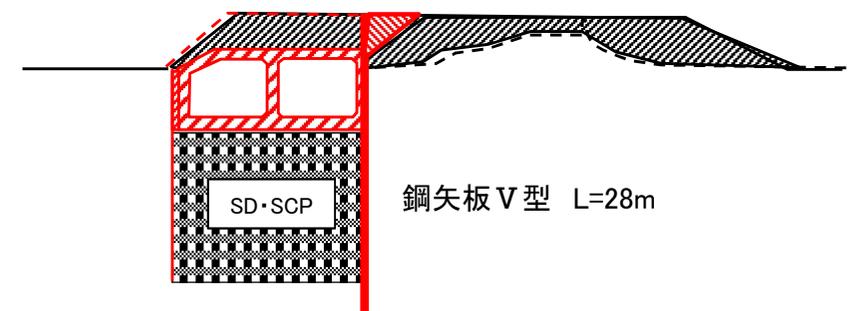


■河川側の土留め矢板の長さ変更

当初 トンネル函体の構築に必要な鋼矢板を設置



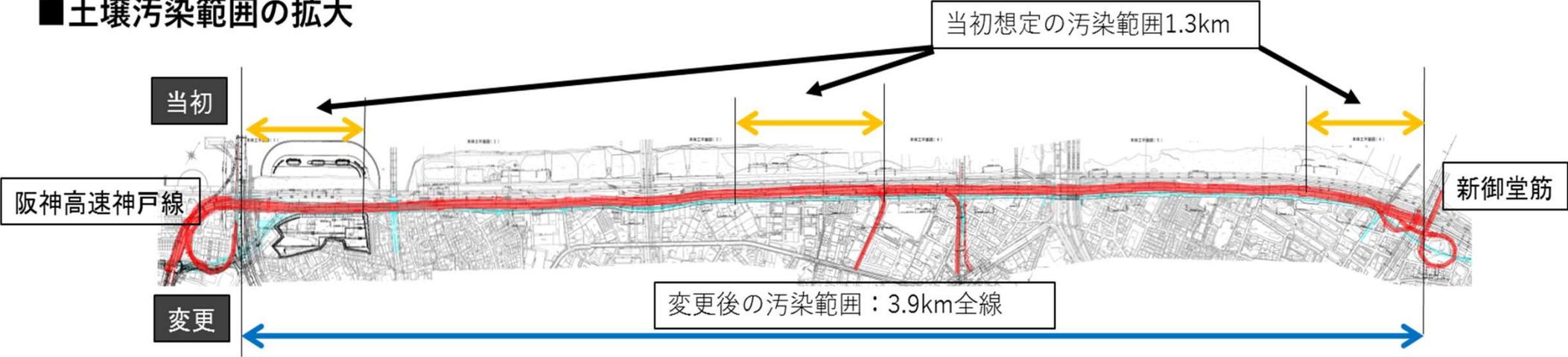
変更 デルタ部の盛土によるトンネル函体への影響を遮断するのに必要な鋼矢板を設置



3 費用便益分析 前回評価時からの増減・増減要因(主な増額内容)

2 現地調査後に判明 事業費：+302億円

■ 土壌汚染範囲の拡大



■ 既設下水の撤去工法変更

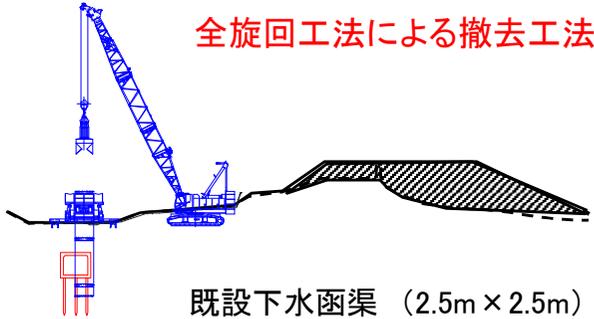
当初

コンクリート圧砕機によるオープン撤去工法



変更

全旋回工法による撤去工法



※ 全旋回工法による撤去状況